

# そよ風のような 「変動微风空調システム」

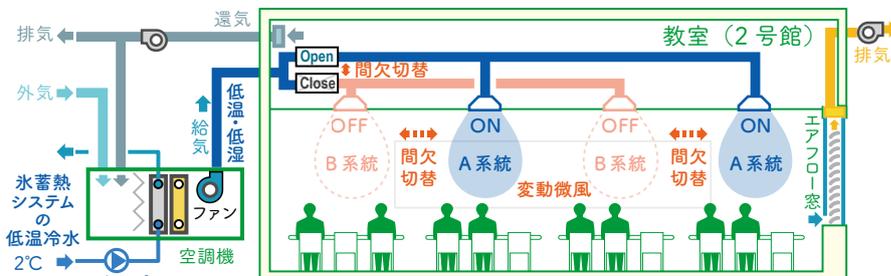
## 仕組み

### 低温・低湿の変動微风で 省エネと快適を両立

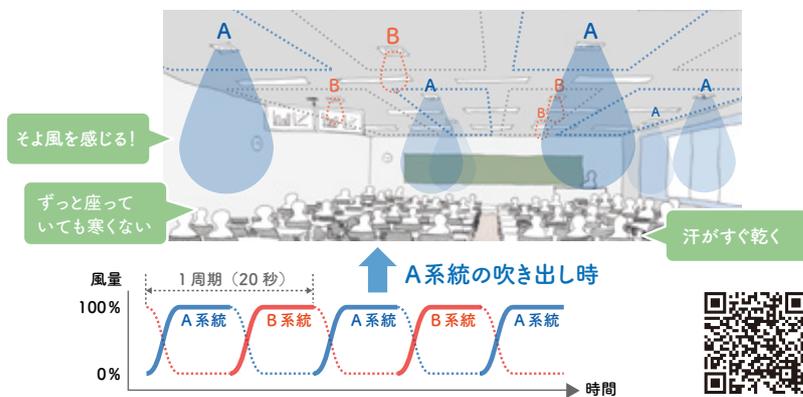
水蓄熱システムの低温冷水を空調機で利用し、低温・低湿の冷風をつくります。この冷風をA・Bの2系統に交互に間欠給気し、変動微风をつくり出します。ポンプや空調機のファンは、その時必要な最少流量だけを供給する省エネ運転制御を採用しています。A・Bの2系統からの低湿度の間欠変動冷風による「そよ風」を感じる空調を行うことにより、少し高めめの室温設定が可能になり、省エネと快適を両立します。

	普通の空調	変動微风空調
室内温度	25℃	28℃(全体) 26℃(局所)
室内湿度	50~60%	40%
手元風速	約 0.2m/s	約 0.1~ 0.8m/s
吹出气流	常時風	間欠風

普通空調との比較(冷房時)



低温・低湿の冷風を利用した変動微风空調システム



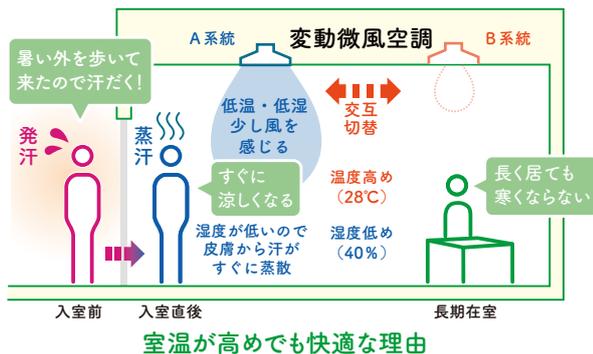
A系統・B系統の間欠切替のイメージ

動画はこちら

## なぜ 快適なの?

### 低湿度の変動微风で 室温が高めでも快適

低湿度の変動微风は、そよ風や首振り扇風機の風のような効果で、在室者が暑さを感じる原因となる余分な身体の熱を放散させて、涼しさを感じさせます。これにより、室温が少し高めでも、快適を損なわない省エネ空調が可能です。

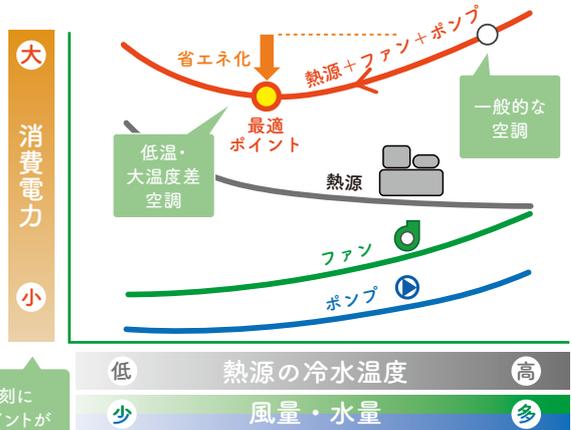


室温が高めでも快適な理由

## なぜ 省エネなの?

### 低温・大温度差利用 で搬送動力を削減

低温冷水をつくると熱源の消費電力が大きくなりますが、低温を生かした冷水や冷風の温度差利用により、搬送消費電力を小さくできます。年間では、運転時間が長いポンプやファンの消費電力を大きく削減でき、省エネ運転が可能です。また、大温度差利用は、蓄熱槽容量を小さくでき、スペースやコストを低減します。



大温度差による省エネ効果のイメージ

季節や時刻により最適ポイントが変化するので、コンピュータにより制御している!

